

- 正しい施工をしていただくため、必ずお読みください。
- 施工するには、電気工事士の資格が必要です。
- 施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書をお渡しください。
- 保証書に必ず必要事項を記入してください。
- 万一、施工説明書にしたがわず施工された場合の事故や故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

付属品	WQS580W	WQS586W
取付木ネジ(4×20)	2本	
位置決めゲージ	1コ	
ネームカード	1枚	
お客様ご相談窓口一覧表	1枚	
取扱説明書	1冊	—
保証書	1枚	—
施工説明書(本紙)	1枚	

安全上のご注意

警告

- 必ず電源(AC100V)を切った状態で施工してください。活線工事は感電や故障の原因となります。
- 水や雨のかかる場所(屋外など)および湿気の多い場所(浴室など)には設置しないでください。感電の原因となります。
- AC100V用電源線は確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合、発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因となります。
- 小勢力端子にAC100V用電源線を接続しないでください。発火・発煙の原因となります。
- 商品は、分解しないでください。親機・副親機の内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

施工上の注意

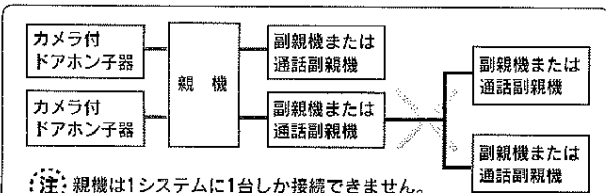
- 子器は、らくらく玄関番カメラ付ドアホン子器を使用してください。副親機は、らくらく玄関番マルチ型副親機(WQS586W)または玄関番マルチ型通話副親機(WQS587W)を使用してください。ほかのカメラ付ドアホン子器や副親機は接続できません。
- 最大システムで親機(WQS580W)が1台、カメラ付ドアホン子器が2台、副親機(WQS586W)が3台、通話副親機(WQS587W)が4台まで接続できます。
- 副親機(WQS586W)と通話副親機(WQS587W)の接続台数の合計は、最大で7台です。ただし副親機(WQS586W)の接続は最大3台までとしてください。
- この商品は屋内専用です。屋外には設置しないでください。
- 近くに高出力の無線局などがあると映像や音声が入る場合がありますが、故障ではありません。

配線方法

- 接続する商品は別途お買い求めください。
- 接続機器については、その商品に付属の説明書をよくお読みください。
- 端子は速結端子、⊗端子はネジ端子を示します。

ご注意

- 副親機と通話副親機の配置順序は自由に選べます。
- 副親機・通話副親機からは分岐配線はできません。



- 増設用チャイムは親機(WQS580W)、副親機(WQS586W)に各1台ずつ接続できます。
- 通話副親機(WQS587W)に増設用チャイムは接続できません。

適合増設用チャイム	●光るチャイム(EC170) ●光るチャイム(電源コード付)(EC170P) ●メロディサイン(EC730W)
-----------	---

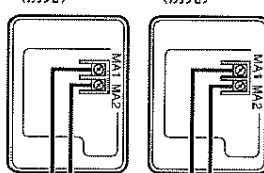
注意

- 必ず、らくらく玄関番カメラ付ドアホン子器を使用してください。
- 配線には必ず平行ケーブルを使用してください。(同軸ケーブルは使用できません。)

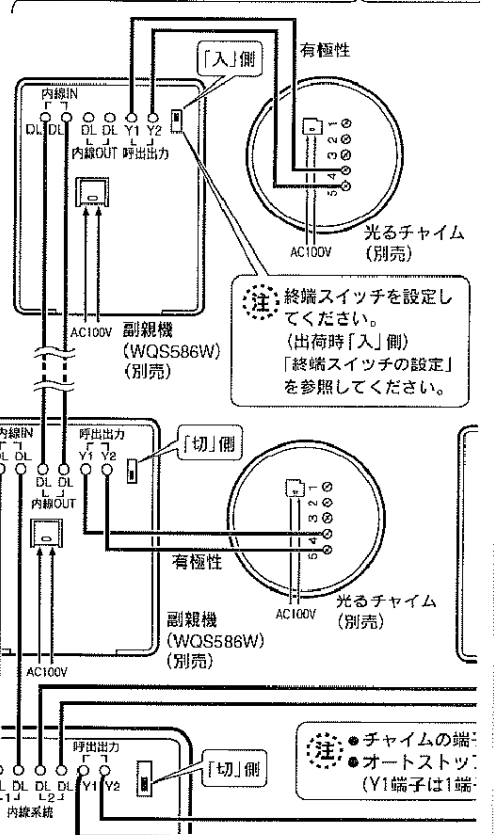
2台まで接続可

カメラ付
ドアホン子器
(WQS700AK)
(別売)

カメラ付
ドアホン子器
(WQS700AK)
(別売)



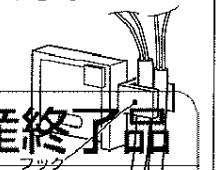
副親機(WQS586W)と通話副親機(WQS587W)まで接続可。ただし、副親機(WQS586W)最大3台までとしてください。



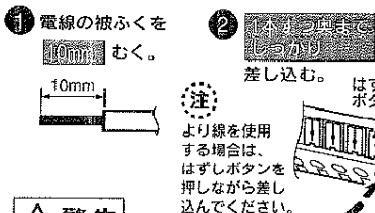
●終端スイッチを設定してください。
(出荷時「入」側)
「終端スイッチの設定」を参照してください。

●チャイムの端子
●オートストッパー(V1端子は1端子)

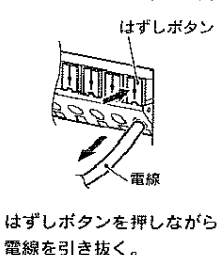
電線が取付金具で傷つけられるのを防ぐため、各接続機器への配線は、結線後、下図のようにフックに引っ掛けてください。



速結端子(小勢力配線)



電線のはずし方



警告

小勢力端子にAC100V用電源線を接続しないでください。
発火・発煙の原因となります。

AC100V配線

適用電線 VVFφ1.6

結線方法

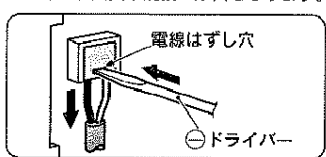
- ① 電線の被ふくを12mmむく。
- ② 1本ずつ奥まで強く差し込む。

警告

AC100V用電源線は確実に差し込んでください。差し込みが不十分な場合、発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因となります。

電線のはずし方

- ドライバーで電線ははずし穴を押し込み、電線を引き抜く。



生産終了品

この商品は生産終了につき製造することができません

らくらく玄関番
マルチ型親機
(WQS580W)

生産終了品

この商品は生産終了につき製造することができません

子型親機 WQS580W 副親機 WQS586W

施工説明書

環境

・副親機の近くに強い磁気を発生するものがあると映像や音声が乱れる場合がありますので、注意してください。
 ・直接当たる場所、騒音の大きい場所では、通話音がとぎれて取りにくくなることがあります。
 ・ウツ管の破損の原因となりますので落としたり、強い衝撃をあたえてください。
 ・副親機および子器間の配線を電灯線、電話回線などと平行にする場合は、50cm以上離してください。
 ・に雑音が入ったり、映像が乱れる場合があります。
 ・スイッチは正しく設定してください。設定が間違っているとが乱れる場合があります。
 ・式テレビインターホン制御器(2:2用)(WQS8000)は接続できません。
 ・機器については、その商品に付属の説明書をよくお読みください。

次のような場所には設置しないでください。

(誤動作や故障の原因となります。)

●同一室内での設置
 ●ドア開放時に室内機同士が
 ●見合わせる位置での設置
 ●室内機を背中合わせに設置

室内機間で音が回り込む位置

極端に寒い場所・暑い場所
 (冷・暖房の近くや、直射日光の当たる場所)

水や雨がかかる場所(屋外など)
 ●感電の原因となります。

テレビ、ラジオ、ステレオなどの近く
 (2m以上離してください。)
 ●映像や音声が乱れる場合があります。

直接湯気のかかる場所
 湿気の多い場所(浴室など)
 ゴミやホコリの多い場所

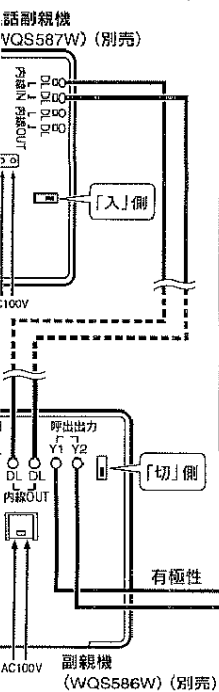
硫化水素の発生する場所(温泉地など)
 ●寿命が短くなることがあります。

7W)は合計で)の接続は

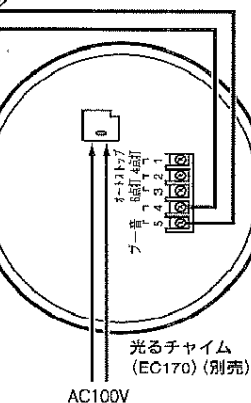
配線可能距離

使用電線	0.65 または 0.5mm ²	0.9 または 0.75mm ²
親機～ カメラ付ドアホン子器	50m	100m
親機～最終端の副親機 または通話副親機	100m	
親機～増設用チャイム	50m	

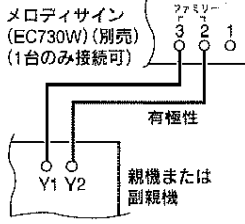
注
 結線終了後、断線や接続不十分な部分がないか必ず確認してください。
 特に配線の途中で電機接続する場合は、ハンダ付処理か圧着スリーブ処理を行い、その後テーピングで絶縁してください。
 (電線をよじっただけでは、接触不足や、長期間使用中に電線表面が酸化、接触不良をおこし誤動作や動作しないなどの原因となります。)



は極性があるため、接続極性を間違えると鳴動音が鳴り続けます。
 にも接続できます。
 又は3端子へ、Y2端子は2端子へ接続します。)



メロディサイン (EC730W)との接続図



配線上的ご注意

●親機と副親機間、および親機とカメラ付ドアホン子器間に不要な配線がある場合は、取り除くか新たに配線をしてください。また配線をばらしたり、分岐しないください。映像や音声が乱れる場合があります。

●らくらく玄関番マルチ型のセットを2組以上使用する場合は下記のように設置してください。
 50cm以上離さないで、映像や音声が乱れる場合があります。

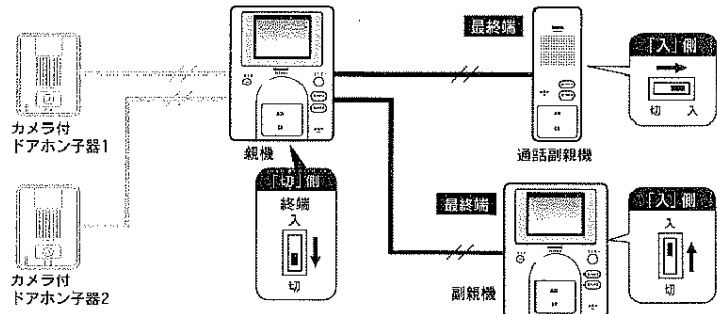
●室内機配線とカメラ付ドアホン子器の配線は、必ず別配線で行ってください。同一シース(4心AE線など)や同一配管で配線すると、音声に雑音が入ります。
 別配線で行ってください。

終端スイッチの設定

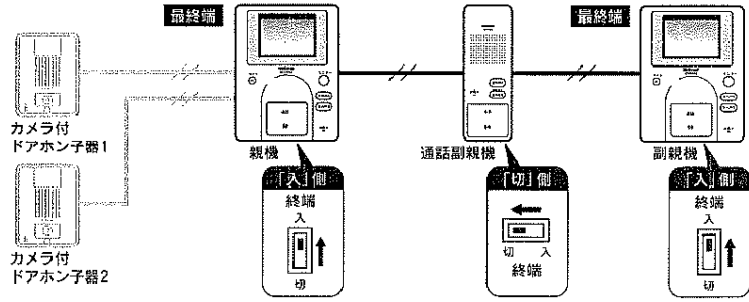
●終端スイッチは室内機(親機・副親機・通話副親機)配線の両端に接続される機器は「入」側、両端以外の機器は「切」側に設定してください。

親機から分岐配線する場合

注 終端スイッチは各機器の裏面にあります。



全体を送り配線する場合



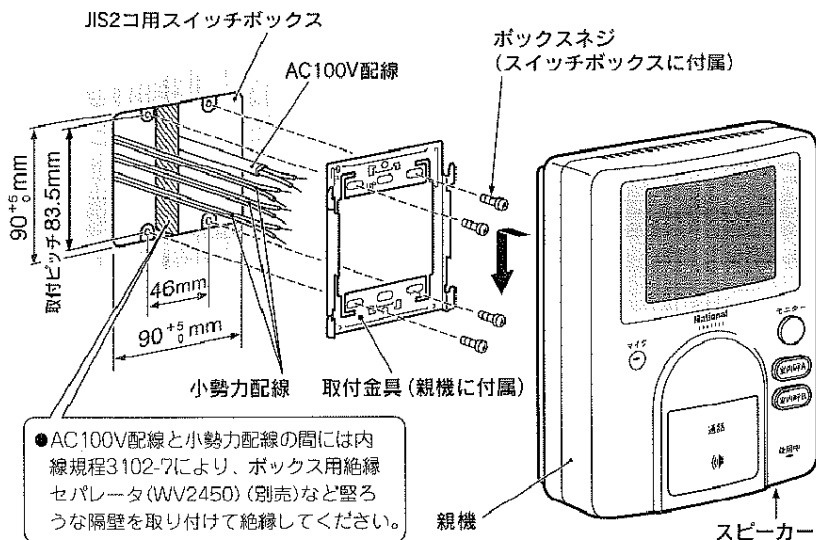
取 付 方 法

●下記の図は親機(WQS580W)を示します。副親機(WQS586W)も取付方法は同じです。

ボックス取付の場合

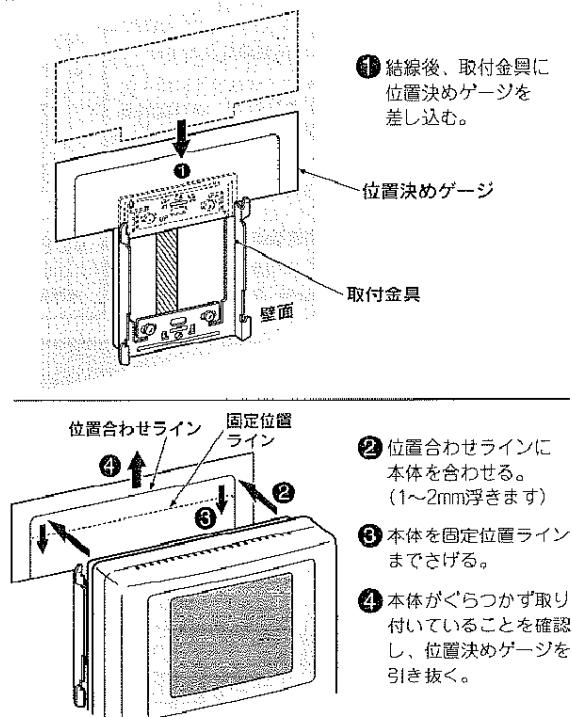
ご 注 意

- 下側にスピーカーがありますので、ふさがないように施工してください。
(通話音量の低下およびハウリングのおそれがあります。)
- 右側面に設定スイッチ部がありますので、ふさがないように施工してください。
- 取付穴の中心より親機の中心は15mmさがります。
- 商品を取りはずす際、上側にスライドさせる必要があるため、取付金具上部から50mm以内には障害物がない位置に取り付けてください。
- 取付高さは床面より親機中心まで145cmをおすすめします。



位置決めゲージの使用方法

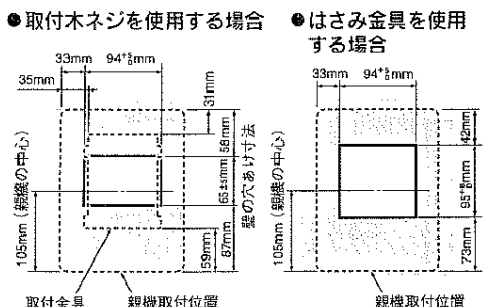
位置決めゲージは本体を取付金具に取り付けやすくするものです。位置決めゲージを使用せずに取り付けることもできます。



ボックスなし取付の場合

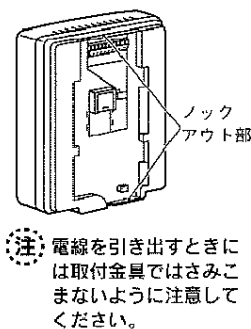
- AC100V配線と小勢力配線が接触しないように施工してください。
 - ほかの取付方法はボックス取付と同じです。
 - 木壁取付の場合、取付金具は付属の取付木ネジ2本で取り付けてください。
- ※ 石膏ボードへの取り付けは脱落を防止するため、必ずはさみ金具 (別売) を使用してください。

■壁の穴あけ寸法



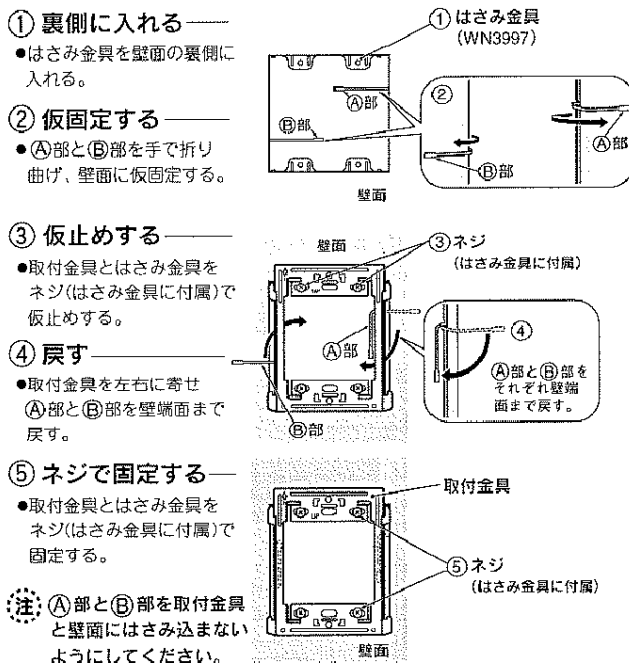
■露出配線する場合

- 配線方向に合わせてノックアウト部をニッパーなどで切り取って配線してください。



はさみ金具を使用した場合の取付金具の取付方法

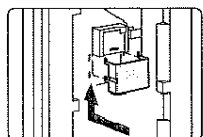
〔はさみ金具に石膏ボード用取付押え金具 (2連用) (9~30mm壁用) (WN3997) (別売) をご使用の場合は下記の手順にしたがって施工してください。〕



絶縁板について

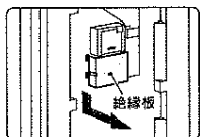
■取り付け方

- 結線後、ツメをミゾ(4カ所)に差し込み上へあげる。



■取りはずし方

- 絶縁板を下にさげてはずす。

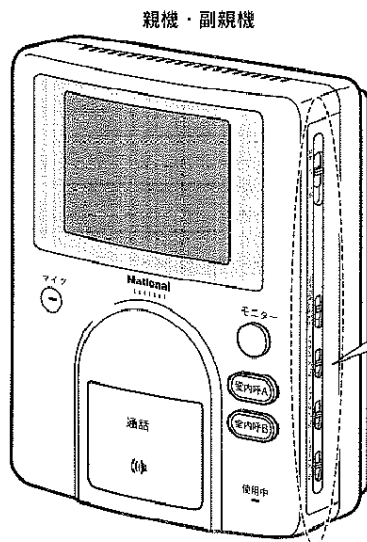


- ボックス取付の場合は、絶縁板は不要です。
- ボックスなし取付の場合で壁面に充填するグラスウールなどが接触するときや、露出配線する場合は、内線規程により、絶縁板を取り付けてください。

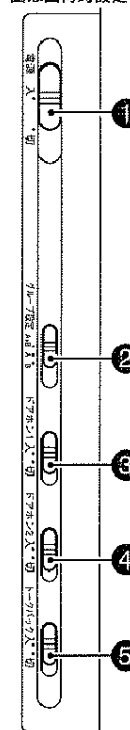
機能設定

施工店様へのお願い

●使い方に応じて、設定スイッチ部を設定してください。
設定後、お客様の控えのため取扱説明書の「初期設定シート」に設定状態を書き込んでください。



図は出荷時設定



① 電源スイッチ

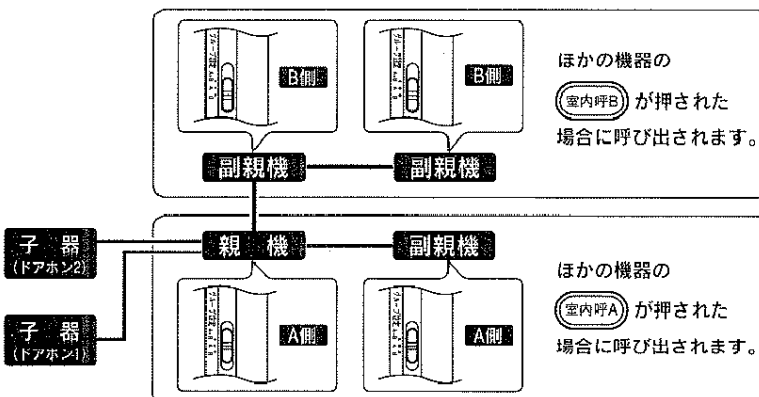
電源の「入」「切」ができます。

② グループ設定スイッチ

グループ分けを行い、グループ別に内線通話ができます。
設定したグループの室内呼ボタンが押されたときに呼び出されます。

グループ設定スイッチ	動作
A+B	グループAとグループBの両方の呼び出しに応答できる
A	グループAのみの呼び出しに応答できる
B	グループBのみの呼び出しに応答できる

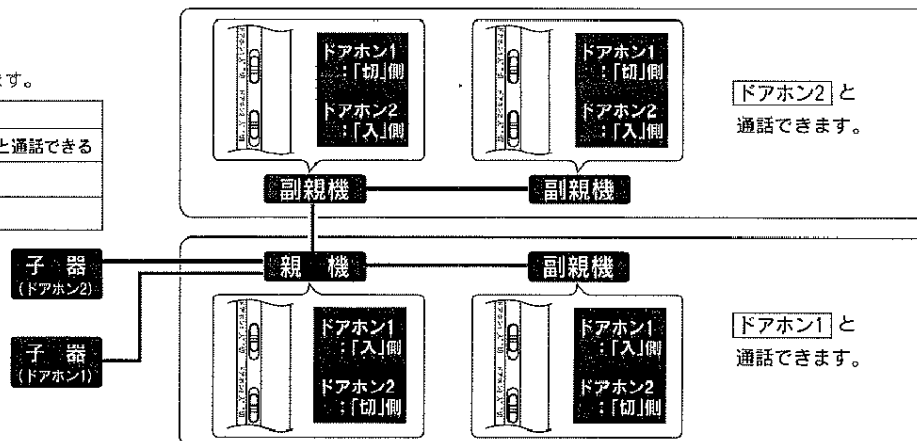
〔注〕 上記は応答する側の親機・副親機の設定です。
(グループAに設定している親機または副親機でもグループBを呼び出すことはできます。)



③ ④ ドアホン設定スイッチ

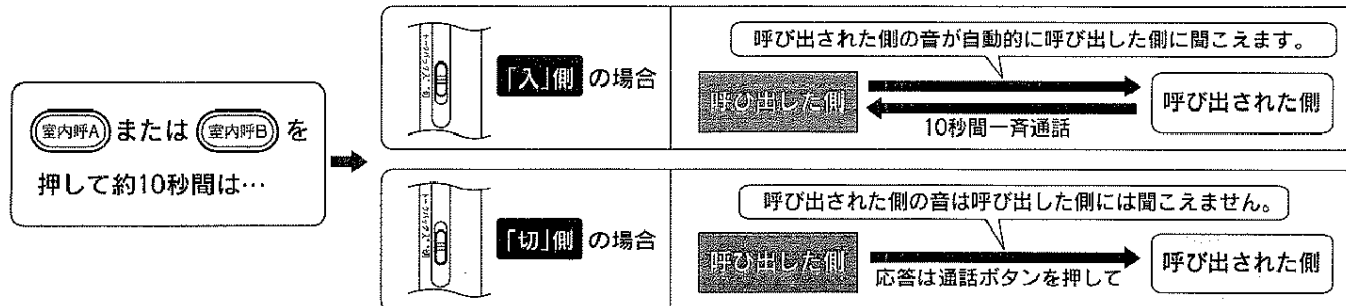
各機器ごとに応答する子器(ドアホン)を設定できます。

ドアホン1	ドアホン2	動作
入	入	ドアホン1、ドアホン2の両方と通話できる
入	切	ドアホン1のみと通話できる
切	入	ドアホン2のみと通話できる



⑤ トークバック設定スイッチ

内線通話する場合、室内呼Aボタンまたは室内呼Bボタンを押すと、約10秒間は呼び出された側の室内の音が呼び出した側に自動的に聞こえます。(トークバック機能)
常に大きな音のする部屋で使用する場合やプライバシーを保護するため、呼び出された側の室内の音を聞こえなくすることができます。(通話ボタンを押すと通話できます。)



〔注〕 約10秒経過すると通話ランプは緑色点滅し、内線呼び出し中となります。

施工後の確認

取扱説明書にしたがって正常に動作することを確認してください。